

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の7つの約束」を守って学習に取り組めるように呼びかけることで、学習規律の徹底を図った。 ・算数は、ステップアップ教室や放課後補習教室を実施することで、基礎的・基本的な学力の定着を図った。 ・放課後補習教室を実施し、国語や算数の基礎的、基本的な問題に取り組ませることで、自分の苦手領域や理解が不十分な内容にも取り組む姿勢が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も「学習の7つの約束」を繰り返し指導し、学習環境を整える。 ・学習の遅れがある児童には、休み時間や放課後を使って、個別指導を充実させ、支援していく。 ・各種調査の結果を踏まえ、過去の資料も活用しながら、つまずきが多かった類型問題に取り組むなど、学習指導の改善・充実を行う。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画や評価規準を作成し、授業を構築することで、新学習指導要領に沿った授業改善を図ることができた。 ・学び合いの時間に、発表やグループ活動等の学習形態を取り入れることで、自分の考えを話すことができるようになってきた。 ・コロナ禍でも、交流できる方法を考え実施することで、学び合いの時間を確保した。 ・有馬スタイルを作成したことで、主体的、対話的、深い学びを意識した授業展開をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握し、個や学年の様子に応じた指導ができるように学年で指導方法をよく検討していく。 ・「深い学び」の評価の仕方や、ふり返りの時間の不足などが課題であるため、検討していく。 ・有馬スタイルの実践後の検証をより充実させる。検証結果を全校で共有し、有効活用できるようにしていく。
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・有馬スタイルを生かして、担任全員が同じ単元で授業実践を行い、互いに授業を見合ったことで、授業力向上に繋がった。 ・校内研究で学んだ新しい生活様式に準拠する授業展開を、授業に活用することができた。 ・外国語活動では、授業の計画をJTEやALTと毎週必ず打合せを行うことで授業改善を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有馬スタンダード、有馬スタイルを生かしたOJTを学年間で実施していく。 ・若手教員を指導・助言する授業公開を年間を通して計画的に行っていく。 ・引き続き、JTEやALTとの打ち合わせの時間の確保を行う。JTEに助言されたことを次の授業に生かしていく。
④家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学年便りや個人面談・保護者会・ホームページを活用して情報発信することで、保護者と情報共有することができた。また、休校中は毎週家庭へ連絡することで、児童の様子を把握することができた。 ・学びが習慣化するように、家庭学習（音読・国語・算数）を毎日行うことで、保護者に学習状況を伝えることができた。 ・学年で共通した内容を宿題として提示したり、習熟度の低い児童に対しては追加の補充プリントを行ったりすることで、学習の 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や個人面談以外にも、児童の気になる変化については、家庭に小まめに連絡し、管理職や、学年間で、情報共有を行う。 ・家庭学習の習慣化に課題のある児童については家庭へ様子を連絡することで、協力をお願いしていくようにする。 ・家庭学習の習慣が身に付いていない児童や基礎的・基本的な学力が身に付いていない児童に対して、取組状況を知らせるなど、

	<p>習慣化と基礎学力の定着に向けて取り組んだ。</p>	<p>家庭と連携して学力向上に取り組んでいく。</p>
<p>⑤体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の学習で縄跳びや走る運動、体づくり運動を継続的に取り組むことで、体力向上を図ることができた。 ・ 体力アップカードについて保護者に協力を求めたことによって、児童が日常的に運動に取り組むことができた。 ・ 体育の授業でサーキットトレーニングを取り入れたことで、児童も自主的に各種の動きに取り組み、多様な動きを楽しみながら身に付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力テストに向けて、それぞれの技のポイントを指導し、繰り返し練習する機会を設ける。 ・ より効果的に体力アップカードの取組が行えるよう、振り返る時間を確保するなど取組ませ方について工夫していく。 ・ 体力アップカードの成果を実感できるように、体育の時間などに体力アップカードの取組を計画的に取り入れる。